



修復整備工事を終え完成した、国指定名勝 旧秋田藩主佐竹氏別邸(如斯亭)庭園の開園式で(10月21日)

市長コラム

日っネカ心

秋田市長 ● 穂積 志(もとむ)

如斯亭開園、天徳寺散歩

川の流れとともに

遠く太平洋山を望むと、山の頂から始まった紅葉もいつの間にか人里近くまで降りてきて、日に日に秋が深まっていくのがわかります。自然が冬の装いを整えるように、私たちの暮らしもまた雪寄せの準備や暖房の備えなど、冬の身支度の季節となりました。

さて、この太平洋山に源を発する旭川の河畔に、先月21日、国指定名勝 旧秋田藩主佐竹氏別邸(如斯亭)庭園が開園し、私も早速散策してきました。奇岩の景石や灯籠、四季折々の植栽などさまざまな風景をたのしむことができます。見どころは園内十五景。「紅霞洞」や「玉鑑池」「渴虎石」「巨鼈嶋」など、字を見ているだけでいろいろな風景が浮かんでくるようです。例えば巨鼈嶋。滝壺からさらに流れ落ちた水を湛える池が玉鑑池ですが、この池に浮かぶように



流水を湛える玉鑑池

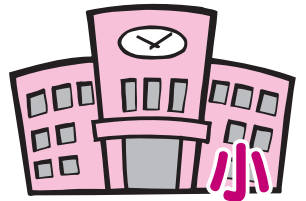
配置された大きな石を巨鼈嶋といつて大きなカメラがそこにいるかのように見立てて楽しむものです。その隣に大きな石は渴虎石と言って巨鼈嶋と同じく石の形状から命名されたものと言われ、喉が渇いた虎という意味だそうです。

ではそもそもこの「如斯亭」の名前の由来はご存じでしょうか。九代藩主佐竹義和公が滝からの流れを見て、孔子の論語「逝く者は斯くの如きか、昼夜をおかず」から引用したそうです。水流の絶え間ない流れを嘆賞しつつ、人間の道も学問もまたこのようにあるべきという意味になり、その名の起源からも義和公のこの庭園に対する思いが伝わってくるようです。この如斯亭のすぐ西を流れる旭

川も、菅江真澄の助言を受けて義和公が命名したと言われていますが、旭川橋を渡り北西に1kmくらいのところには佐竹氏の菩提寺天徳寺があります。総門、山門、書院など二十万石大名の菩提寺にふさわしい壮大な伽藍配置で、本堂は茅葺き屋根の建物としては日本有数の規模を誇ります。

如斯亭と天徳寺ともに秋田市を代表する歴史名所ですが、実は文化財としては珍しいダブル指定という共通点があります。一般的に文化財は建造物・史跡・名勝・民俗などに分類されますが、天徳寺は建造物として、如斯亭は名勝として国指定、また双方とも史跡として県指定となっており、このことは歩いても10分程の2つの文化財がいかに多面的な価値を持っているかを表しているように思います。

日頃から何げなく目にしていて、歴史的価値を必ずしも意識しているわけではありませんが、この時季、ときどき訪れる小春日和に合わせ、紅葉から落葉そして冬木立を眺めながらの歴史散歩もおすすめです。



小・中学校の適正配置の検討

健やかに成長できる 教育環境をめざして



市では、少子化の進展により将来の児童・生徒数が減少しても、確かな学力を身に付け、心身が健やかに成長できる教育環境を確保・提供していくため、市民のみならず、将来の小・中学校のよりよいあり方(適正配置)について考えていくこととしています。

市ではこれまで、2つの学年が1つの教室で学ぶ「複式学級」がある学校を対象とした統廃合などを行ってきました。現在の学校数は、小学校41、中学校23になります。

秋田市	小学校児童数	中学校生徒数
2017年 (5月1日現在)	14,114人 ↓	7,257人 ↓
2040年 (国立社会保障・人口問題研究所の推計)	7,908人	4,206人

今後、さらに進む少子化に対応するため、昨年度、「秋田市小・中学校適正配置推進委員会」を設置し、全市的な観点から、学校の適正配置について検討を行い、基本的な考え方をまとめました。その概要は下記のとおりです。

何年後の将来を見据えるか？

2040年までに、児童・生徒数の大幅な減少が予測されています。長期的な視点で、将来の児童・生徒数を見据えて検討する必要があります。

将来も良好な教育環境を確保するため、2040年の児童・生徒数を想定した検討を今から行います。

1校あたりの学級数は？

小学校・中学校とも、さまざまな集団が組みやすく、交流活動も実施しやすいこと、また、子ども同士の関係などから一定の規模を持つことが望ましいと考えます。加えて、中学校については、部活動の選択の幅が広がるメリットもあります。

学校の適正規模を12〜18学級とし、より望ましい学級数を18学級として検討を進めます。

どのように配置を考えるか？

秋田市総合計画の7地域の区分を参考として、学校の配置や地域の状況を踏まえ、ブロック分けと想定される学校数を検討していきます。中学校区が小学校区より広域であること、また、一つの小学校から別々の中学校に進学する状況の解消が望ましいことから、中学校区から先に検討していきます。

秋田市をいくつかのブロックに分けた上で、地域の実情を勘案しながら検討します。

今年度、すでに市内各地で説明会を開催したところですが、引き続き、これらに対する市民のみならずのご意見を募集しています。説明会の資料などが必要な場合は、学事課へお問い合わせいただくか、同課ホームページをご覧ください。今後、いただいたご意見を踏まえ、同推進委員会において「学校配置素案」の検討を進めていきます。

問い合わせ▼学事課

TEL (0888) 58006

FAX (0888) 58004

http://www.city.akita.jp/city/ed/sw/



寄付・寄贈、ありがとうございました

【寄付者】

秋田市飲食店組合環同連合会

▼福祉事業に役立ててほしいと、7月に開催した、チャリティイベントの収益金の一部5万円を寄付していただきました。



10月16日の贈呈式で。穂積市長に目録を渡す同連合会の鈴木 清会長。両端は長澤欽一副会長(右)と鈴木眞澄専務理事

【寄贈者】

(二社)秋田市建設業協会

▼7月にオープンした秋田市新屋ガラス工房に、可動型ポラード(車止め)6個を寄贈していただきました。



10月16日の贈呈式で。右が同協会の林 明夫会長



可動型ポラード